

第 566 回 放送番組審議会

1. 日 時 2020 年 9 月 15 日 (火) 13 : 30 ~

2. 開催場所 テレビ岩手本社 6 階大会議室

3. 委員総数 9 名

出席委員 9 名

委員 長	大橋 綾子
副委員 長	佐藤 健志
委員	加藤 千晶
委員	前田 千香子
委員	石田 亨
委員	柿木 康孝
委員	越沼 洋一
委員	緑川 智恵子
委員	林 英彰

社側出席者 6 名

榎野 信治	(代表取締役社長)
畑山 篤	(常務取締役 報道制作局長)
池田 学	(取締役経営企画局長 兼 技術局長)
石川 亮	(取締役営業担当)
藤原 哲也	(報道制作局報道部長)
藤村 恵一	(報道制作局アナウンス部長)

事務局

小岩 祥子	(編成局長 兼 編成部長)
黒澤 星	(編成局編成部)

4. 議 題

- ①2020 年 8 月 8 日(土)15 時 55 分~16 時 55 分
ニュースプラス 1 特報「新型コロナ~私たちが今すべきこと~」
- ②その他

5. 資 料

- ①自社制作番組放送スケジュール (2020 年 9 月 15 日~2020 年 10 月 19 日)
- ②視聴者からのご意見 (2020 年 8・9 月分)

6. 意見

委員側意見

- 盛岡市立病院の内部の取材は県民が非常に興味ある内容で、感染症指定医療機関は他の総合病院と扱う感染症が異なることなど必要なポイントを押さえて分かりやすく紹介されていたと思う。
- 行政のトップである達増知事とコロナ対策の医療側のトップの櫻井先生のお話を聞いた事が良かった。岩手では長く感染者が出なかったが、行政側も医療側も気を緩めることなく感染拡大に対する備えを進めていたということがよく伝わった。
- 秋から冬にかけては、インフルエンザの流行が心配される。新型コロナウイルス感染症との同時流行への医療機関の対応についても取り上げてほしい。
- 大きな項目の中で“誹謗中傷を無くしましょう”ということをやテーマにし、知事からの色々なメッセージが出ていたのはとても良かったと思う。「犯罪となるかもしれないから県はしっかりと記録を取っています」という知事のコメントは重要な抑止力になると思う。
- 櫻井教授の“全くかからないというのは不可能”これからは“どうかかりにくくするか”という考え方は、経済活動を維持する上で重要だと思う。この話が櫻井教授から出てきたのはすごく良かったと思う。
- 初の感染者確認からそれまでの経緯と感染経路、県のPCR検査と医療体制、県民の暮らしへの影響、その中で県内経済をどのように立て直すのかを説明した上で、櫻井教授、達増知事の受け止め方考え方を紹介してとても理にかなっていたと思う。県民の取るべき行動等について理解しやすい構成であった。
- 番組最後に、“私たちがすべきこと”を簡単にまとめていたら、さらに分かりやすく受け入れやすかったのかと思うが、生放送であれば仕方ないのかなとも感じた。
- この番組の放映は土曜日の午後だったが、どのぐらいの方が視聴されたのか、知りたいと感じた。
- 櫻井教授の発言で、前回審議したニュース企画「フカボリ」との連携で違和感を感じたところがあった。

局側意見

- 番組の世帯視聴率は平均で10.8%。同じ時間帯では全局含めてトップだった。放送が始まった時点で大体4%ぐらいだったものが、番組が進むにつれて上がり、終了間際に18%に到達していた。やはりコロナに関しては視聴者の皆さんも敏感に反応しており、今回の特番に関しても県民の関心の高さというものを裏付けたのではないかと考えている。

○インフルエンザと新型コロナに関連しては、通常のニュースプラス1いわての企画「フカボリ」などで取り上げるべく現在準備している。

○前回「フカボリ」を放送したのは、岩手だけが感染者ゼロという状況が2ヶ月半続いた時期。「なぜ岩手がゼロなのか」という疑問に焦点を絞って制作した。この番組での櫻井先生の発言は「感染者が出ていなかった時も、実は感染者が通り過ぎていた可能性は十分あった、今も同じ状況が続いているのではないかというふうに考えている」という専門家としての見解でしたので、「フカボリ」との整合性については違和感を感じておりません。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日公表の方法

- ① 自社放送 9月22日(火)11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ② テレビ岩手本社での備え置き
- ③ 読売新聞への掲載(別添)
- ④ 自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>